

栄東地区における学校規模適正化の取組 説明会 開催結果概要（栄緑小会場）

【日時】

令和7年9月16日（火）18：30～19：40

【場所】

栄緑小学校 屋内運動場

【参加者】

地域住民・保護者14名

【説明内容】

栄東地区学校配置検討委員会における協議内容・協議結果について

【参加者からの質問・意見概要】

質疑・意見	回答
烈々布通は、現在でも信号や歩道がなく、通学に不安がある。再編までに安心安全に通学できるよう準備してほしい。	教育委員会でも実際に通学区域内の現地調査を行っており状況は把握している。開校に向けて、何かできることがないか、調査・検討してまいりたい。
今の栄緑小の通学区域内でも、特に烈々布通に通学安全上の課題があり、また、再編による通学区域の変更で新たな課題が生じる可能性もあるが、解決の見込みはあるか。	
再編後の通学区域（案）では、百合が原小と栄北小に編入する①②の区域を指定変更区域とするとのことだが、これを烈々布通と東8丁目通が交わる付近まで拡大できないか。 この周辺は、冬期間に道路幅が狭くなるなど通学に不安があるため、各家庭の判断で通わせる学校を選択できるようになると良い。	指定変更区域の拡大は考えておらず、お尋ねの区域は、再編後の通学区域とする想定。 指定変更区域とは別に、児童・家庭の個別の事情が、指定変更の要件に合致した場合には、栄北小への通学をお認めすることもあることを補足させていただく。
栄東小の児童にとっては、学校の位置がそのままなので、再編への不安は少ないと思うが、栄緑小側は、学校がなくなることに対して不安があるのではないかと思う。 これまでの検討の中で、子どもや保護者から再編に関する不安の意見は出ていたか。	これまでに「小規模校の方が教員の目が行き届いて良い」「通学距離が長くなること、通学安全への不安がある」といったご意見を頂戴している。
取組案では、校舎の建て替えに併せて、児童会館とまちづくりセンターの複合化も含まれている。栄東小の敷地が広くない中で、児童会館の複合化は理解できるが、まちづくりセンターまで複合化する理由は何か。	札幌市全体として、更新期にある公共施設は、地域コミュニティの中心である小学校に集約、複合化していくという方針。 ただし、ご心配もごもっともであり、今後検討を進める建築設計では、敷地を最大限に活用し、より良い複合施設にしていきたい。

再編後の通学区域（案）を見ると、栄緑小の通学区域が3分割されることになると思う。栄緑小と栄東小との事前の交流事業だけでなく、百合が原小や栄北小と事前に交流する機会も欲しい。	これまでの学校配置検討委員会における協議状況については、百合が原小や栄北小の教職員とも共有してきた。 再編校の開校前の段階で、不安なく新しい気持ちで通学できるよう、各学校と相談しながら、より良い交流の機会を検討していく。
---	--

【栄緑小学校校長 閉会の挨拶】

栄緑小学校は、保護者や地域の皆様のお力添えもあり、とてもいい学校であると自負している。今回の取組の話を聞いた際、心情的としては寂しいという気持ちは皆さんと一緒にではないかとは思いますが、今後の児童数の減少を考えるとやむを得ないことと一定の理解はできる。

新設校は栄東小学校の敷地を活用するということで、本校から見ると遠くなるという見方もできるが、通学区域については、近隣校との配慮もしていただけるということは良かったと感じて。また、校舎が新しくなり、これからの時代に合った複合施設がこの栄東区に誕生することを前向きにとらえて、様々な課題も出てくるかと思うが、地域や保護者の皆様と協力しながら進んでまいりたいと考えている。

参加者からのご意見にもあったが、本校の通学区域内には通学安全の課題を認識している通学路があるのも事実。難しい課題ではあるが、通学安全の確保は非常に重要なことと考えているため、安心安全な学校を目指し、開校に向けて進んでまいりたい。